

■安曇野の地下水は市民共通の財産 保全に向け指針を報告

安曇野の地下水の保全と適正利用について検討する市地下水保全対策研究委員会（会長 藤縄克之信州大学教授）は8月24日、安曇野市地下水資源強化・活用指針をまとめ、宮澤市長へ報告しました。

指針では、基本理念に地下水は「市民共通の財産」と位置付け、市民・事業者・行政一体での取り組みを示し、保全に休耕地など農地を利用する事や、取水の届出制、保全の経費を地下水利用者へ負担を求める独自の方法を盛り込んでいます。

藤縄会長は「全国に誇れる独創的で立派な指針ができました。全国の先進例になればうれ

しい」と指針完成の手ごたえを話しました。宮澤市長は「大切な地下水を次代に引き継ぐため、この指針を生かしていきたい」と話しました。

市ではこの指針を基に平成24年度中に関連条例の制定を目指します。



宮澤市長へ指針の内容を説明する藤縄会長

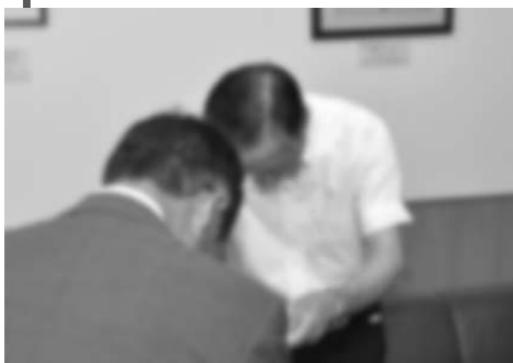
■豊科地域の児童館2館の統合を検討会が報告

市豊科地域児童館建設検討会（三原壽雄^{としお} 会長）は、豊科地域の児童館の建設検討報告書をまとめ8月22日、宮澤市長へ報告しました。

豊科地域南部の子どもたちが主に利用する豊科中央・高家の2つの児童館は、昭和53年にそ

れぞれ建設され、施設の老朽化や、利便性などの面から今後の施設の整備のあり方について同検討会で検討してきました。

報告書では、児童館内にある放課後児童クラブを分け、児童館と児童クラブ室を別々に整備すること。児童館を現在の豊科



三原会長から宮澤市長へ報告書が手渡された

中央児童館の付近に建設し、児童クラブ室は子どもたちが利用しやすい豊科南小学校付近に建設することなどが報告されました。

宮澤市長は、「検討結果を尊重しながら、地域の子育てを第一に検討したい」と話しました。

■地震被害を想定 上水道事業関係者が災害時の対応を訓練

市では、地震災害を想定した上水道災害時対応訓練を豊科高家配水場で8月10日、行いました。

訓練には、市上下水道部、管工事事業協同組合など関係機関から60人が参加。市内が震度6強の地震に見舞われ、上水道配水管の一部を破損する被害を想定した情報伝達訓練に始まり、

続く停電対応では、非常用自家発電機を始動し、取水・送水ポンプの操作方法を訓練しました。このほか、緊急遮断弁の手動操作の訓練や給水車・給水タンク搭載車への水搭載訓練、断水地域への給水訓練などが行われました。

講評で中野純上下水道部長は、「災害が起きると気が動転

しがちですが、訓練を生かし落ち着いて対応してほしい」と参加者に呼び掛けました。

市では今回の訓練結果をもとに、災害時における一層の対応・復旧能力の向上に努めます。



模擬配管による破管箇所の修理訓練の様子

■JA全農長野・(株)マイパール長野と市が「森林の里親契約」を締結

市と全国農業協同組合連合会長野県本部（JA全農長野）および(株)マイパール長野は、堀金烏川の森林約54haを対象にした「森林の里親契約」を締結し、9月10日、調印式を市内で行いました。

この契約は、県が仲介し、企業などが市有林など森林の「里親」となり、間伐や枝打ちなど



里親の2社と契約調印を行う宮澤市長（写真左）

の森林整備のほか、資金面での支援を行う取り組みです。市内では3件目の契約となります。

里親の2社は、市内で収穫された長野米を取り扱っており、森林保全により稲作に必要な水を確保し、良質な長野米を育てると市と契約したものです。

当日は里親のJA全農長野の埋橋茂人本部長、(株)マイパール

長野の大澤一夫社長、仲介役の県林務部の塩入茂部長が出席。大澤社長は「森と水を守り、安心・安全な安曇野産長野米を全国に届けたい」と話しました。

契約期間は3年。JA全農長野は年間50万円、(株)マイパール長野は市内で収穫された「長野米」の売り上げの一部など18万円を森林整備費として支援します。